# topics

まちのわだい

## まちづくりの功績に感謝を込めて
## 平成26年度功労者・善行者表彰式

平成26年度の津別町功労者・善行者表彰式が、11月3日、中央公民館において執り行なわれました。

今年は、功労者（自治、産業開発、消防）表彰を4氏、善行者表彰を2氏・2法人・1団体が受賞。佐藤多一町長から一人ひとりに表彰状と記念品を贈呈し、町の発展や振興に多大な貢献をされた方々の功績を称えました。

受賞者を代表して丸尾論さん（産業開発功労者）が、「この度の受賞は皆さまのおかげであり、身に余る光栄です」と謝辞を述べられました。

受賞おめでとうございます。

（前列左から）滝口和弘さん、丸尾論さん、溝渕成能さん、阿部博道さん（後列左から）江草憲章さん、軍司信さん、津別ライオンズクラブ・松平範慶会長、網走信用金庫・森澤敏津別支店長、丸玉産業株式会社・松岡道雄津別工場長

## 乳牛飼料確保の効率化や生産性向上に寄与
## TMRセンターの竣工式が行われる

11月7日、達美の下水道管理センター横敷地に建設が進められていた「津別町TMRセンター」の竣工式が行われ、80人あまりの出席者が施設の完成を祝いました。

TMR（混合飼料）とは、乳牛に必要な粗飼料、濃厚飼料、ビタミン、ミネラルなどを予めすべて混合して給餌させる方式で、分離給餌方式と比べると作業の効率化や生乳の生産性向上が期待できます。

同センターは平成25年度農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を受けて建設されたもので、有機酪農6戸を含む町内12戸の酪農家が利用する予定です。

## 結成から25年
## 東京つべつ会が開かれる

東京つべつ会（佐藤仁宣会長）の総会が10月26日、千代田区の東京グリーンパレスで開かれ、57人が集い、町からは佐藤町長や鹿中議長などが出席しました。

佐藤会長は「今の津別のことを知って身近な人に津別を宣伝していただきたい」と挨拶。「つべつを観て・食べる会」と題した祝賀会では、町の様子を紹介した映像を鑑賞しながら、ジャガイモや玉ねぎ、津別和牛など町の農産品の会食が行われました。

まる太くんもデビュー一周年を記念して登場し「恋チュン」を踊って盛り上げ、町内の企業・団体から提供された地場産品の抽選会も行われ、参加者は故郷の味覚を味わい、思い出の津別町を懐かしみながら懇親を深めました。

## 自分らしい生活をめざして
## 「認知症の前兆を見逃さない」講演会

11月2日、平成26年度津別町健康づくり講演会「認知症の前兆を見逃さない」が、筑波大学の朝田隆教授を講師に招いて、中央公民館で行われました。

軽度認知障害研究の第一人者である朝田先生が、認知症の発症状況や、日常生活の動作は正常だが物忘れが多くなった、など認知症の前兆である軽度認知障害について説明。さらに認知症の予防に有効とされる食生活の改善や、有酸素運動などについて具体的に紹介しました。

会場を埋めた参加者は、メモを取るなどして熱心に講師の話に耳を傾けていました。

## うつ病について学ぶ
## 玉越病院院長の講演会実施

10月22日、中央公民館にて「先生おしえて！ うつ病のこと」をテーマに、医療法人拓美会玉越病院（北見市）の玉越拓摩院長による講演会が行われました。

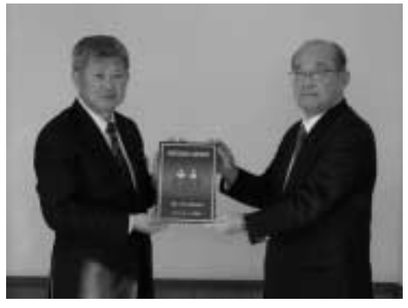
玉越院長は「うつ病は、心と体が疲れているのになかなか休まらない状態。自動車で例えるとオーバーヒートしてガス欠なのに空ぶかししている状況です。治療は、不安を下げ休息をとり、少しずつ活動を開始すること。周囲は、暖かいまなざしで焦らず見守ることが大切です。まずは、早めの病院受診を」と説明。町内外からの140名を超える来場者は、熱心に講演に耳を傾けていました。

## 消防団協力事業所として認定
## 有限会社三共に表示証交付

有限会社三共が消防団協力事業所に認定され、11月6日、同社で表示証の交付式が行われました。

消防団に2名以上入団するなど、消防団活動に協力している事業所に対して美幌・津別広域事務組合が「表示証」を交付し、地域への貢献を果たしていることを社会的に評価する制度によるものです。

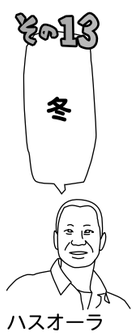
交付式では、広域事務組合の副管理者である佐藤町長から山田裕史代表取締役社長に表示証が手渡されました。山田社長は「現在、2名が入団していますが、若い社員を教育していただき感謝しています」と話されました。



## 地域おこし協力隊の思いつき日記 その13

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

冬



ハスオーラ

津別にきて冬の厳しさを体験しながら将来の夢を語りつつ家族全員で過ごしている。

津別に来て2回目の冬がやって来た。北海道の冬は雪が深くて、本当に生活は大変だと妻が呟きながらストーブをガンガン焚く。毎日の除雪を考えると家を出るのも嫌がったりする。

だが、この雪を違う角度に変えて見ると楽しいことがいっぱいある。今までの当り前の緑の大地が真っ白に染まり屋根も畑も山も森も雪に覆われ絵を描いたみたいになる。この寒さが私には動きやすくてちょうどいい。スノウシューを履けば今までは入れなかった森の中もすんなりと歩ける。森の中に入ると静かで暖かい、空気が透き通って幻想的な世界、常緑の木に積もった雪がロマンチックな気分で毎日がクリスマスのようだ。こんな贅沢はほかにはない。

モンゴルの冬は非常に寒い。日中でも氷点下20℃を超えるので夜はいうまでもない。雪はめったに降らないが豪雪の日々もある。子どもの頃、雪が降るのが楽しみだった。雪が降っている間はやや暖かく感じるので兄に付いて狩りに行った。雪の上に兎の足跡を見つけて罠をしかけて。まぁ、子どもの遊びだから狩れたり狩れなかったりだけど、罠にせっかく掛った兎を兄弟で言い争っている間に逃がしてしまったこともある。雪が止むと、体の芯まで凍りつく本当の寒さがやってくる。

津別の2度目の冬、妻は暖房の前から離れない。共感するが感動はないのだ。津別の魅力はまだまだたくさんあると思う。自然の触れ合いは夏だけではない。子どもたちの自然体験などは冬もすすめていきたい。